

第6回中播磨新地域ビジョン検討委員会 議事録

1 日時 令和4年3月11日（金）16:00～17:30

2 場所 姫路職員福利センター3階 大会議室

3 意見交換の内容

〈委員〉

最終案については、当委員会での議論やパブリックコメントの意見を踏まえ、香寺高校の皆さんのイラストも加えて取りまとめられており、原案に賛同したい。姫路市としても、新地域ビジョンに掲げる将来像の実現に向けて、中播磨県民センターと協力しながら取り組んでいきたい。

新地域ビジョンのPR展開については、パブリックコメントの意見にもあるように、行政としては計画策定後のPRや活用が課題となる。令和4年度は、まず新地域ビジョンの策定自体をPRしていく必要があると考えるが、あわせて今後の県民センターの施策展開や各種イベント等において、新地域ビジョンの基本姿勢、将来像、行動目標、イラストを積極的に使用する等、長期的な視点で、新地域ビジョンの内容を浸透させていくよう意識して取り組む必要がある。また別の意見にもあるように、2050年に向けて、若い世代にアピールしていくことが重要である。今回香寺高校の皆さんに協力いただいていることもあり、管内の高校へのパンフレットの配布や学校での新地域ビジョンの活用等、具体的な方策について、教育委員会等の関係機関との連携も検討が必要ではないか。

〈委員〉

最終案については、表紙と裏表紙のデザインがとても良く、これを見た時に、まずイラストに引きつけられると思う。冊子をざっと見ても、各ページでイラストがよく目立つので、そのイラストの持つ意味や行動目標が自然に目に入り、詳細ページへ上手く誘導できている。来年度、市川町が過疎地域の認定を受けることから、持続的発展計画の策定を早急に行う必要が生じているので、策定にあたっては、この新しい中播磨新地域ビジョンと不整合が生じることはないよう調整しながら作り込んでいきたいと思う。

PR展開については、プロモーションビデオを作成できれば何かとPRに活用できると思う。病院の待合スペース、公共施設、商業施設等、また文化センターでの催しの前や映画館の上映前にPR動画を流せたら効果があるのではないか。

〈委員〉

最終案については、原案に賛同する。

PR展開については、特に意見、提案等はない。

〈委員〉

最終案については、表紙と裏表紙ともに、非常に印象的な形でまとめていて良い

と思う。内容についても、パブリックコメントに丁寧に対応していて良いと思う。ただ、表紙の右上に「NHM2050」と記載があるが、「中播磨地域ビジョン 2050」の文字が、第一印象としては、少し小さいので、目立たず、わかりにくい気がした。デザインの関係で、変えられないということであれば仕方がないが、もう少し工夫しても良いと思う。また3ページ以降で、16の行動目標の色は4つの将来像ごとに色づけをされているが、例えば、赤の『多様な人が行き交う「交流」中播磨』であれば、3ページから4ページと1つの将来像で紙をめくる必要がある。2ページと3ページに掲載する方が、見開きで1つの将来像がまとまるので見やすいと思った。

PRについては、イラスト活用のアイデアという観点で、これだけ多岐に渡る項目でまとめているので、今後、様々な施策に繋がっていくと想像している。その時にこのイラストでアピールしていくのは1つの方法だと思う。

〈事務局〉

表紙のタイトルの文字の大きさについては事務局でも考えた。行政では「中播磨地域ビジョン 2050」を上部の中央に記載し、スローガンも大きめにするのが、よくある形だが、それでは文字とイラストが邪魔をし合ってしまう。また、今回はイラストに目を引いてもらうために、あえて行政らしさをなくし、タイトルの文字を小さく控えめにし、色も黒色で抑え、まず絵を見てもらうようにした。

3ページ以降で、2ページから3ページにかけて、同じ将来像の色を見開きでまとめるという意見もいただいた。実は何回か前に開催した当委員会の案ではそのようになっていたが、この2ページの柱立ての基本姿勢と将来像が右のページにくると、将来像の柱と3ページ目以降の繋がりがわかりにくいという意見をいただいたため、ページをめくらなくても見開きで、柱立ての表と、赤色の行動目標①以降が自然と対応していることがわかるように、あえてこの構成にしている。

〈委員〉

そのような理由であれば、ページ構成はこのままで問題ない。表紙についても、まずイラストで捉えるというコンセプトでまとめているのであれば良いと思う。

〈委員〉

最終案については、全体としてはこれで良いと思う。コロナ禍が始まったと同時に当委員会も始まり、この2年間で色々と議論してきたことを話そうと思う。当初は、新型コロナウイルスの影響で地方回帰が進むか思っていたが、新型コロナウイルスが落ち着いてくると、東京に人が戻りつつあると感じている。そういう意味で、地方回帰のところをもう少し強くアピールする必要があったと反省をしている。これから上手く導けるのであればありがたいと思う。自分が担当していた交通関係については、19ページを見ても、JR 姫新線、JR 播但線のダイヤの様子を見ると、一次交通が危ない気がしてきているので、一次交通についても、もう少し大きく打ち出す必要があったと反省をしている。細かいところはあるものの、最終案はこれで十分よくまとめられており、賛成である。

PRについては、皆さんが言われている通り、イラストを全面的に上手く活用するアピール方法は必要かと思う。可能であれば、ホームページ上で、見た人が自由に

意見を打ち込めるようなものであれば面白いと思う。

〈委員〉

全体としては最終案に賛成で、すごく良いイラストだと思った。特に心配だったのは人と人との繋がりである。近年は携帯電話やリモート会議等で便利になってきており、仕事はそれで上手くいくかもしれないが、人と人との繋がりには相手の顔を見ながら、相手の言葉を聞くことで繋がっていくと思う。典型的なものは、秋祭り等のイベントで、皆で力を合わせるというところに繋がりができてくると思う。個人の権利が強くなると、自治会としても非常にやりにくいところがあるが、そこは文章にまとまってあるので十分だと思う。人と人の心が繋がっていない現状が心配だったが、最終案はすごく良いと思った。

〈委員〉

最終案については、上手くまとめられていると思う。

PRについては、新しい中播磨地域ビジョンの冊子を教育関係だけではなく、事業所や商工会にも配布できたら良いと思う。今はペーパーレスになってきているので、いつでもネットで見られるように、PDF化して、スマホでも見られるようにし、QRコードで読み込んでもらうことで、そのページにアクセスできるようになれば、もっと普及すると思う。

〈事務局〉

冊子については、年度内にある程度の部数を印刷するが、基本はホームページで見ってもらう。これだけの文量を紙で配るという時代ではないので、ホームページに掲載し、QRコード等を活用することでアクセスしてもらい、皆さんに見てもらうような形にしたい。並行して、紙でしか見ることができない人のために、冊子は作ろうと考えている。

〈委員〉

イラストについては、すごく素晴らしく、良い色合いで作っていると思う。ただ、30年後の2050年には人口が11万人減少するという見込みを記載しているので、目標値になるような数値を少し入れても良かったと今は思う。

PRについては、30年後を展望しているので、若い人を中心にすれば良いと思う。例えば中学生や高校生の授業の中で取り入れてもらえるように簡単にした動画やリーフレット等を作ったり、それをホームページで見てもらえれば良いと思う。特に中学生や高校生の年代にわかりやすい説明になっている動画は学校としても使いやすいと思う。「トライやる・ウィーク」のように中学校や高校あたりに積極的に関与するような働きかけを、教育委員会とも連携をとりながら対応してもらえたらと思う。一般の企業には、なかなか難しいかもしれないが、そのあたりもしっかりと対応してもらいたい。また、高齢の人で30年後について気にしている人もいると思う。ツールを使うことが難しいという人もいるかもしれないので、いくつかは冊子を作って、配布ができるような体制も考えていく必要があると思う。

〈委員〉

前回からイラストが入り、より見やすくなったと思う。表紙もすごく手に取りや

すく、開いてみたいと思うデザインになっていると感じた。最終案に関しては、今まで話し合ってきたことがまとまっており、さらに見やすくなって良いと思った。

34 ページの 7 行目にもあるように、このビジョンを共有し、連携しながら中身の内容の取組を進めていくことが PR でも重要なことだと思う。冊子も多少は必要だが、やはりホームページで気軽に誰もが見られるように、まずは入口をわかりやすくし、中播磨地域ビジョンってどんな内容だろうと思ってもらう。すごく見やすくていいので、入口になる表紙を見つけやすいところに置く等、誘導ができれば良いと思う。

〈委員〉

最終案については、本当に良いものが出来たと思っており、賛成である。パブリックコメントもきちんと反映されていて良いと思った。表紙については、前回の委員会で魚をイメージしたものと聞いた時は少しイメージが湧かなかったが、送られてきた最終案の表紙を見て、半分折りになっていて少し意表をつかれた。ほのぼのとしたアニメイラストが描かれたことで、中身も難しい堅苦しい感じがなくなり、ちょうど良いやわらかい感じなので、手に取って開いてみようという気持ちになる。各ページにイラストが挿入され、将来像の目標がわかりやすくイメージしやすくなっていると思う。参加された生徒さん達の将来への思いも込められていて、すごく良いと思う。以前、後ろにあったビジョンの説明を最初の 1 ページ目に掲載した方が良いと提案があったが、読んでみて、きちんと集約されていて良いと思った。これを読んで、将来自分達の地域が、こんな地域だったらいいな、こんな地域に暮らしたいなという思いがはっきり伝わってきて、すごく良い内容になっていると思う。

PR 展開について、実際にこの冊子を私が使うとしたら、行動目標が自分の考え方と比べて視点がずれてないか等、自分自身のビジョンに対する意識を再確認したいと思う。また、何かを始めようと思った時は、取組アイデア案に参考になることが多く記載されているので、それをしっかり活用したいと思った。県民の皆さんに取組アイデア案を活用した事業の募集を行って、良いアイデアや取組の事業を、行政で応援することをしたら良いと思った。本日、委員からのプロモーションビデオを作ったら良いのではないかと意見はとても良いと思う。また、委員から事業所にも配った方が良いと提案があったが、中播磨地域にある大きな企業の社会貢献枠の事業にも使ってもらえることができればと思う。それと 30 年後の将来を担う若い人達に活用して欲しい。教育現場で活用してもらったら良いと思う。

〈委員〉

ビジョンの内容としては、将来を担う子どもや若者から高齢者、性別、外国人等の多様性の部分も含めて、色んな話し合いができたと思う。それが基本姿勢の「個性（ひと）が輝く中播磨」という中身に合致した内容で、それぞれが行動目標に上手く盛り込めたと思う。私自身の感想になるが、観光交流部会に参加をしている中で、ゲストスピーカーからツーリズム振興を交通から考えるというテーマで講演いただいた時に 2 つの方向性があると言われていた。自動車の立ち入りを制限し、馬車を使って二次交通を確保しているスイスの例があり、自動車運転技術の進む中で、

のんびりではあるが、景色を眺めながら乗っているだけで目的地に着くことも1つの自動運転だと言われていた。我々は将来を考える時に、技術開発がどんどん進んでいることばかりに目を向けてしまいがちになるので、そういったことを自分自身でもう少し考えられたら良かったと反省もしている。神河町も令和4年度に2050年の将来ビジョンを描こうとしているので、山の再生や農業の再生等の分野を中心に、町の形を描いていくことを予定している。今回のビジョンと不整合がないようにしたいと思うし、また今回の議論を大いに参考にしたいと思う。

活用方法について、神河町では中学校に出前授業もしていた。小学校6年生の国語の授業や、高校生も自分達の学校がある地域を考えようと勉強しているので、出前授業も良い機会だと思う。職場の若い女性にこの最終案を見せると「何これ？」と言われたが、確かにわからないと思う。色々なチラシやQRコードという話もあったが、「何かおいしいものがついてくる等であれば中身をみようと思う」ということも言っていた。各市町ともおそらくできると思うので、いくらかの特産品みたいなものをプレゼントするので、読んで感想をもらった人には抽選で特産品が当たるというようなことを少し考えてもらえたら良いと思う。また、職場の女性もピンクは若い女性の気を引ける色で良いと言っていた。

〈委員〉

最終案の内容はこれで良いと思う。少し気になるところは、32ページのSDGsのピクトグラムの文字がパッと見た時に読めない。33ページの下に余白があるので、ピクトグラムのサイズを横6列から横5列にする等、大きくしてもページ数に収まると思う。また、16ページから掲載している画像と画像の間隔を揃えた方が、統一感があって良いと思う。例えば、29ページだと左側と右側とで少し間隔が違う。

PRについてで、ビジョンのことを知ってもらうには2つの段階がある。新しいビジョンができたことを知る段階と、その次に新しいビジョンがどこで見ることができるか探す段階である。最初の段階では、チラシや新聞広告等、色んな媒体で新たな兵庫県のビジョンができたと知らしめるものが必要だと思う。次の段階で、そこで興味を持った人が詳しい内容はどこにあるのかと思った時に、例えばホームページを開くことになるが、そのホームページがどこから入るかということも、しっかりわかってもらえるようにした方が良い。今の行政のホームページは深く探さないと目的のページに辿りつかなかったりするので、例えば、兵庫県のホームページが開いたら、ここをクリックすれば、すぐに到達できるといったように、簡単にビジョンのところへ辿り着くようにしてもらえればと思う。中播磨県民センターのホームページは、専門のホームページがあるのか、それとも兵庫県のホームページから入らないとアクセスができないのか。

〈事務局〉

中播磨県民センターのホームページは、兵庫県のホームページの一部としてある。兵庫県のトップページからすぐにアクセスできるようにしたり、QRコード等を使えば、すぐに中播磨のトップページにもいけるので工夫もしたいと思う。

〈委員〉

QRコードはパソコンでは使用できないのではないかな。

〈事務局〉

URLを書くという方法もある。

〈委員〉

宣伝しているものを見ると、「○○で検索」というものを見るので、そのようなものがあれば入りやすいと思う。どんなものだろうと思った時に、簡単に辿り着く方法を考えてもらえれば良いと思う。

〈委員〉

色んなことを言い出すと終わりが無いので、最終案はこれで良いと思う。ただ、発言の機会をいただいているので細かいことを言わせてもらおうと、例えばパブリックコメントで出た意見として中播磨地域のエリアを指すための地図を入れているが家島が記載されていない。淡路島の下沼島は記載されているが、沼島より家島諸島の方が大きいと思うので、家島諸島を記載し色づけすべきだと思う。パブリックコメントでは、姫路城は県内唯一の世界遺産であることを強調すべきとあるが、同じ世界遺産でも姫路城は法隆寺と同時に選ばれ、日本で言えば世界遺産の中でも最上位に選ばれている。スペースが少し空いているので、例えば「国内で最も初期の段階で選ばれた」という記載をすれば、同じ世界遺産というインパクトを与えるにしても面白いと思う。地元で客員教授をしている人と最近交流をしているが、彼は地方の「知」を作らないといけないう。リカレント教育の「リカレント」は「RE」で、再びということだが地方に「RE」はあるのだろうか。もともと学びが少ない人や学んでいない人にどのようにしてリカレントをするのかと話している。その人も地元の有力企業の社員を教育しているが、そこの経営幹部と話しても、30年間で本を1冊も読んでいないと言いき、そういう人達を教育しないといけないう。これは日本の地方全体を覆っている大きな問題だが、チャレンジしたい人やより深く考えていく人は都心部に出て行き、残った人は安住したまま沈んでいってしまう。これはビジョンではなく私の夢だが、そことは違いう中播磨を目指したいという思いがある。

〈委員〉

最終案の内容については特に異論はない。表紙については、県立香寺高等学校とデザイナーに協力をしてもらい、何回も高校に行かれたということで最終的な成果も良かったが、そのプロセスがすごく良かったと思う。

細かいことだが、表紙の「中播磨地域ビジョン2050」の文字が小さいと感じている。イラストを引き立たせたいという気持ちはわかるが、少し表紙感がない。行政文書だけではなく、一般書籍もタイトルは大きいと思う。裏表紙に見えてしまうかもしれないので、タイトルに該当するものはもう少し大きくても良いと思う。

一方で、表紙の下に記載のある「令和4年3月」や「中播磨新地域ビジョン検討委員会」等の部分は表紙には不要だと思うので、裏表紙で十分だと思う。

また、1つ1つのイラストは良いが、表紙のイラストの組み合わせが雑なところがある。わかりやすい箇所と言うと、裏表紙の青色とオレンジ色の外枠が接してい

る箇所は離れているが、その下のオレンジ色と緑色の外枠が接している箇所はくっついている。表紙でも、イラスト同士の外枠の直線が綺麗に整っているものもあれば、少しずれていて段差ができているところもある。また、印刷の問題かもしれないが、同じ赤色でも場所によって色が違って見えるものもあるので、最後に表紙を整える段階で注意してもらえればと思う。

3 ページから 10 ページの部分で、行動目標①「姫路に続け！地域資源を磨く」の文字が青色で記載されているが、青色は2つ目の将来像のテーマカラーの色である。混同しやすいと思うので、行動目標①「姫路に続け！地域資源を磨く」は将来像のテーマカラーである赤色にするか、黒色にするかどちらかにした方が良い。

同じ3 ページにある「16 ページへ」という部分だが、デザインの構成で目の動線が左上から右下に流れていく。最後の「ツーリズムを目指します。」と読んだその先に「16 ページへ」とした方が良い。

33 ページの行動目標⑩「ヨイヤサ！伝統文化を次代に受け継ぐ」のSDGsの部分で、文化の多様性というテーマはSDGsのターゲット4-7に「文化の多様性」というキーワードが入っていることから、「4 質の高い教育をみんなに」を関連するSDGsの目標として加えても良いと思う。

37 ページの「(3) その他」の記載は高校生の皆さんのことなので、その他とするよりも「(3) イメージイラストの作成」とした方が良いと思う。また、その中に「県立香寺高校美術工芸部員と有志メンバー」とあるが、香寺高校の部員と香寺高校以外の有志メンバーと読めてしまうので、「県立香寺高校の美術工芸部員と有志メンバー」の方が良い。

PRについては、私はこのビジョンそのものをどうPRしていくかということよりも来年度にビジョンの事業として、何をするのかだと思ふ。1つの提案だが、2050年を見据えて色んな取組をしていこうとすることが1番大事なことだと思ふので、そういうことを先進的に取り組んでいる企業やNPO、地域をビジョンの事業としてリサーチして発信していく。このビジョンをPRするというよりも、このビジョンの理念に即した取り組みをしている皆さんを紹介していくような事業をしていけば良いと思う。また、そのようなサイト等を作る時に、イラストやビジョンに書かれていることを組み込んでいくことが大事だと思ふ。

〈委員〉

全ての内容にコメントをいただいたので、私から言うことはほとんどないが、これまでの地域ビジョンの冊子を見ながら、今回の新地域ビジョンの策定に臨んだが、委員の皆さんや事務局の皆さんの奮闘もあり、新機軸の新しい枠の地域ビジョンができたと思ふ。これがしっかりと地域に根づいていけば良いと思ふ。

表紙の文字の大きさについては、字を省くというのも1つのデザインの方法だと思ふので、このあたりはもう1度、事務局で検討していただきたい。また、全県ビジョンや他の地域ビジョンと並べた時に、どう見えるかもあると思ふので、そのあたりは検討いただければと思ふ。この最終案については、新機軸の地域ビジョンができたと非常に嬉しく思ふ。

2つ目の PR について様々なアイデアをいただいた。これは新年度からの取組になると思う。我々の手を離れて、ビジョンが地域社会の中に受け入れられる様子を見守っていきたいと思うが、新聞やラジオ、テレビでは、完成したことをお披露目するのか。

〈事務局〉

県の広報媒体では、来年度以降に積極的に PR する。完成すれば記者発表もして、取り上げてもらえるような働きかけはしていく。これから様々な媒体を使って PR していこうと考えている。

〈委員〉

兵庫県民になって長いですが、実はこの地域ビジョンはあまり知らなかった。是非とも身近なメディアを通じて知りたいと思う。それを入口にしながら、例えばネットを通じて、より深く知るという方法もあると思うので、在来メディアにも情報を提供すると良いと思う。県のウェブサイトは、どこに何があるのかと、私も探した時に時々思うことがある。他の地域でも新地域ビジョンを策定されているので見たいと思う。また、全県ビジョンも是非とも勉強したいと思っているので、完成したら情報提供をしていただきたい。

最終案をさらにブラッシュアップする意見も出たので、事務局でさらに検討し、完成に結びつけたいと思う。年度内に印刷をする関係で、時間に余裕がないことから、私と事務局で最終調整・確認をさせてもらおうと思う。

〈全委員〉

異議なし。